

令和7年度 第6回藤沢市市民活動推進委員会 議事概要

1 日 時

2025年（令和7年）11月16日（日）午後1時～午後5時15分

2 場 所

藤沢市役所 本庁舎 5-1・2会議室

3 出席者

(1) 委員 11人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、大場委員、鍛地委員、永山委員、新實委員、笛木委員、水戸委員、森田委員、細沼委員

(2) 中間報告団体 8団体

湘南太鼓研究会えの・nico 川名・湘南大道芸・おとあそび楽団・藤沢市せっけん推進協議会・特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット・特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク・六会リトルアンサンブル（MLE）

(3) 事務局 5人

黒澤主幹、二宮課長補佐、緒方上級主査、土倉職員、羽太職員

(4) その他

鈴木市長、中山副市長

傍聴者 7人

4 議題等

(1) ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース及びステップアップ支援コース中間報告会

(2) ミライカナエル活動サポート事業 協働コース中間報告会

(3) その他

5 概 要

○開会

○委員長が開会を発声。事務局から、委員会成立の報告が行われた後、中山副市長の挨拶が行われた。

○委員長から各委員の紹介、事務局から資料確認及び進行等の説明が行われた。

入れない児童が安心して過ごせる場所ができ、保護者も仕事に専念できるようになる、保護者の参加がないということだが、安心して預けられるという声があったのはむしろ喜ぶべきことではないかと感じたので、目標と評価を定義するのも一つだと思う。高齢者、地域の方が参加できる取り組みがされたのか確認したい。

(nico 川名) 保護者から声かけをいただき、嬉しい反面、保護者の方や、地域の人にも参加してほしいので、冊子の中の活動の概要を地域の掲示板に貼ったところ、それを見てボランティアに入りたいと地域の保護者から声かけがあり、入ってもらっている状況。今後もボランティアを募集できるチラシ等を地域の回覧板などに入れて、集まってくれたら嬉しいと考えている。

(委員) そこに行ったらこんな楽しいことがある、親も交流ができて良かったという声もフィードバックされると、モチベーションになると思う。

(委員) 新林小学校学区で、学校にすぐ-るで周知はしているか？

(nico 川名) 活動を立ち上げた時に、新林小学校の学校長と教頭先生には活動の内容、場所、時間帯などの案内は渡している。すぐ-るに関しては新林小学校では今年度本格運用になったばかりで、登録を全学年がしているわけではないと校長先生から聞いているので、今後イベントなどを立ち上げる際に配信をお願いしようと考えているところ。

(団体入れ替え)

③ 湘南大道芸

○湘南大道芸から中間報告発表が行われた。

○質疑応答（主な質疑応答の発言要旨）

(委員) 様々な場所で体験会をして、いろんな方が参加していると思うが、一人が体験するのにかかる時間はどのぐらいか？リピーターがいるのか聞きたい。

(湘南大道芸) 体験する時間は、道具の種類にもよるが、種類を多く出した場合、一つ一つ体験する人が多い。ある程度技の習得まで行って、次に移る子もいれば、全部ひと通りやってみて、自分の好きなものから深くやる子もいる。秋葉台での体験会では、3種類出して1時間で全部を納得す

るまでやっていた。1時間で足りない時には、違う時間帯に来てもう1回やらせてくれという子もいた。

リピーターについては、子供から前に来たことがある話や、私たちが顔を見て覚えていて声かけをすることもある。市内だと前に来たと言ってくれる子も多いので、なるべく地域を限定せずに外に広がりを持って、体験会をやっていきたい。辻堂での体験会は周知できたと思うので、天気さえ良ければ人が集まる感じで実施ができている。

(委員) 広報ができていないとのことだが、写真を見るとかなり人が集まっているように感じる。これ以上人が増えた場合に対応できるのか？もっと集まってほしいという感じか。

(湘南大道芸) 3人では限界の人数もあるが、今後仲間集めをし、イベントが重なった時に分散できるように。イベントを断ったこともあり、3人では対応ができないという場合もあるので仲間集めもできたらと思っている。

(委員) 経営体制も考えつつ進めていただけるとよい。周知がうまくいき、想定以上にたくさん人が来て大変になるということも考えられる。

(湘南大道芸) 12月のパネル展示は仲間集め中心で展示しようと思っている。

(団体入れ替え)

④ おとあそび楽団

○おとあそび楽団から中間報告発表が行われた。

○質疑応答(主な質疑応答の発言要旨)

(委員) 場所の確保について、この市民センターにした理由は？

(おとあそび楽団) 今回はメンバーのスケジュールを確認し、空いているのが鶴沼市民センターしか9月はなかったから。11月はほとんど埋まっていたが、村岡市民センターが新しくなったことでとれた。2か所しかできなかった。

(委員) 楽しそうにやってる雰囲気非常に伝わってきて、いい印象だが、

他のグループと違い少人数で運営していて、搬入など負担が大変だと思う。運営スタッフなど活動として事業を継続していく上で大切だと思うが、スタッフ面をどうしていきたいか？

（おとあそび楽団）中心メンバーでやる演奏・軸となる活動は多くなるとぶれていくと思うので、小林と大河内2人がメインでやっていきたいと思っているが、運営や広報・会場など設営当日のスタッフ的な役割のメンバーは増やしていきたいと考えている。

（委員）どのぐらいの規模か？

（おとあそび楽団）市民センターでの講演は小林と大河内、もう一人のメンバーの3人と身内に手伝ってもらってできる規模なので、逆に規模を増やし、収入を増やしていく中で、ボランティアの一般の方、他の方に来てもらう枠組みを作っていきたい。

（団体入れ替え）

⑤ 藤沢市せっけん推進協議会

○藤沢市せっけん推進協議会から中間報告発表が行われた。

○質疑応答（主な質疑応答の発言要旨）

（委員）参加人数は？

（藤沢市せっけん推進協議会）まち洗いは19人。100人募集するつもりだったが集まらなかった。寒い時期で残念だった。採択が8月からで急ぎ足でいろいろな会場設営、会場の下見も含めて準備したが、11月になってしまい残念だった。暑い時期にやりたい。来年もリベンジでどこかでもやりたいと思っている。

（委員）動画を見て、みんな楽しそうに、一生懸命やってるとの感覚だが、使用前使用後で綺麗になったのがわからないが、実際は？参加した人の声など。

（藤沢市せっけん推進協議会）綺麗になった状態がわかりにくいですが、玉石があり、実際にやってみると、白いせっけん液が茶色くなっていく。子どもたちが足を踏ん張りながら汚れが取れた。という声もあった。学校給食で全国でも羨ましがられている素晴らしいことで、もっと宣伝してほしいと思い、給食課に伝えたことがある。働いている人に聞いたが、

家では合成洗剤を使っていたとしても、学校給食ではせっけんが、当たり前と逆に思われていて、それを自分たちが発信することがなかったとのことなので、私たちが進めていきたいと同時に、藤沢市でも環境都市藤沢であるならば、全面に出す必要はないにしても、子供の命をこのようにして守っていると、どこかで発信できたらいいと、そのきっかけでもあればいいと思っている。

○事務局から意見交換の説明が行われた。

○3グループに分かれて意見交換が行われた。

(意見交換まとめ)

(委員) 湘南太鼓研究会えのと湘南大道芸。湘南太鼓研究会えのはイベントはこれからなので、中間発表と言っても今の時点で報告できる内容は多くない。だが、今までつながりがなかった団体同士がつながり、今後協力しながら活動ができるかもしれないというのは非常に大きな意義。発表があっさりした感じもあったので、写真などを加えてほしいと伝えた。中学生が太鼓を叩いてる様子などを入れるだけでも、外向きにはアピールできる。時間が十分でないとのことで、スタッフや担い手の問題もあることを確認した。

湘南大道芸は短い期間にも関わらず、いろいろ活動されている。有料の体験版などを活動しながらスタートしたことで、いろいろなことがわかり、それに対応していることは素晴らしい。非常に楽しそうな活動なので、ぜひ今度一緒にできたらと委員からの誘いもあった。研修会で他の団体の活動を知る機会があって、非常に良かったとのこと。他の団体の活動を見る機会は少ないが、これから自分たちの活動を考え、方向性を探っていくと前向きな話もあった。

(委員) nico 川名とおとあそび楽団。両団体とも今年度の取り組みについては、計画通りに進んでいる。その中でnico 川名は参加者がゼロだった時もあったが、それを踏まえてリベンジで新しい形でまたおもしろい取り組みをするという学びにもなっている。

おとあそび楽団も親子の参加がきちんと進んで、着々と2月に向かって準備が進んでいる状況。事業はいいが、将来的な継続に向けての課題がある。nico 川名もイベントの時の参加費はもらってるが、それではまかないきれないので補助金がなくなった時にどうなるか。次年度については一定の助

成金を確保できたので、その先の中でグループや大人も子供もみんなに参加してもらおうというコンセプトで進んでいるが、発表の中でもあったが、預かってくれてありがとう。というような声は親としてみれば、子供を一時預かってくれるそういう場所に対するニーズが実際はある。収益行動を考えると、そのようなところも取り入れて、収益を確保していく検討も一つしてもよいのではないか。

おとあそび楽団もスタッフが少数で運営が大変苦しい。演奏側はいいが、運営側のスタッフがいない。ボランティアはスタッフのつて、知り合いで確保して、物を運んだり受付したりといろいろな事務をやってもらっているということも。将来的に外の人も雇えるようにするのかと言ったらお金がかかる話。どう確保していくのかと。今の基本は、参加人数の確保。もっと大きく多く収入を増やすとのこと。そういう方向性を考えているのも、それだけでいいのかということ。収益構造を変えて参加費を値上げするのか、あるいは大人からは千円取るけども、小さなこどもは無料にするなど、いろんなことを考えながら、これから続けていきたいというような将来に向けての話。

(委員) 藤沢市せっけん推進協議会。広報発信をどうしていくか。40年以上活動している団体で新たに価値をどのように伝えていったらよいか。特に給食に絡めてせっけんの良さを伝えていくのはどうかという提案も一つ出ていた。高校の授業の総合学習も多いとのことで、合成洗剤で使うことのリスクを伝えるなど、ターゲット別のアプローチしていく方法もあるだろう。だが、学校へのアプローチが難しいのではないかとこのもあり、教職分野や、校長先生、今のミライカナエル事業で関わっているということをうまく使いながらアプローチをしたらよいのではないか。

いろいろな地域団体が学校を使っていることが多いので、子供のみならず、そういった機会を大人にも周知できるのではないか。インターンシップで高校生を受け入れているとのことなので、世代を広げたところで協力してもらい、発信をしてくれる人もこれから考えたらどうか。一団体では今後難しいところもあるので、他の団体、食に関わるところで、子ども食堂は実際に関わってるところがあるので、連携をしながら食と安全につなげたらより広がったりするとのこと。イベントも11月は寒かったので、ぜひ来年度は参加者を増やすために夏にやっていただきたい。

(スタート支援コース、ステップアップ支援コースの中間報告会講評)

(委員) スタート支援コースの皆さんは、まだ始まって数ヶ月でもう中間報告会か、と思いながら準備したと思うが、短い時間でしっかり活動されていると思った。それぞれ課題がたくさん出てきた。このままでは続けられない、お金をどう集めるか、あるいはこれは一人じゃやれない、人をどのように集めていこうなど。課題が出てくるのは当たり前だと思う。なぜならスタートしたばかりだから、やってわかることは必ずあるはず。やる前に全部わかるなら誰も苦労しないので、実際にやってみて気づくこと、わかることがたくさんあり、対応していくことに意義がある。そのような意味では課題がたくさん出てきているのは、しっかり始められている証拠であり安心し、嬉しい思いで聞いていた。だが、そうは言っても、対応していくために知恵を絞ったりというのはとても大変だということもよくわかる。そこを超えていくことが、活動をスタートして安定的に継続するためには必要なステップだと思うので、引き続き、これからイベントなどもあると思うが、活動をしっかり積み重ねていただきたい。

ステップアップ支援コースについては、スタート支援コースとは趣旨がまた違うと考える。厳しいかもしれないが、大きなイベントで100人募集したのに19人しか集まらなかったというのは正直残念。ステップアップ支援コースなので、活動の基盤はできているはずなので、次の段階を大事にしてほしい。報告にもあったように、いろいろなことができるのではないかと、広報や発信など。次へつながっていくことだと思うので、団体がこれまで40年続けてきた活動をこのタイミングでどうステップアップしていくかを考えて、活動を進められるとよいと思った。

○スタート支援コース、ステップアップ支援コースの中間報告会が終了し、事務局から団体退出の案内が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(2) ミライカナエル活動サポート事業 協働コース中間報告会

○鈴木市長の挨拶が行われた。

○委員長から各委員の紹介、事務局から資料確認及び進行等の説明が行われた。

① 特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット 協働相手 藤沢市市民自治推進課

○特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット、協働相手 藤沢市市民自治推進課から中間報告が行われた

○質疑応答（主な質疑応答の発言要旨）

（委員）すでに導入した13自治会の反応は？

（シニアネット）13自治会については大変よいと。片瀬3丁目は公式アカウントを使って一番最初に始めた。この事業が始まる前から考えていて、始まってすぐに相談に来た。公式アカウントをサポートした。自治会の3分の2の人が、広報もいらない、回覧も紙でいらないと言っている。広報配付が3分の1になったという話を聞いている。他のところも、紙でも回覧しているが徐々に紙はいらないと。はじめた自治会で若い人から回覧板飛ばして。とコメントがある。4、5件おなじところがある。回覧版いらない、これで見るとコメントをもらっている状態。

（委員）楽をしながら自治会を運営する。それが実現しつつあるという感じ。逆に課題があるとの声はないか？

（シニアネット）始めるにあたっては反対する声もあった。セキュリティ問題、個人情報流出という心配をする方も結構いた。20自治会で検討しているが、時期が早いからやめる。という自治会が2件ぐらい、反対が多いからやめようという自治会が2件ぐらいある。

（委員）そのような懸念もあるとのことで、パンフレットで解消できるような作りになるといいと思った。

（委員）高齢者に対してのアクセスが課題になるのではとあったが、高齢者の使用率、反響を聞きたい。LINE、オープンチャットとBANDとMy自治会とあり、BANDが一番多いようだが、理由があるのか？有料化無料化も聞きたい。

（シニアネット）高齢者は結構反発が多い。スマホを持っているが通話しにくい。アプリの入れ方がわからない人が多い。説明は自治会できちんとやる。というサポートをしている。LINEは高齢者でも使用している人が結構いる。すごく入りやすい。登録すれば済むということでLINEが多い。他のBANDやMy自治会はアプリをインストールするところから始めなければいけない。有料、無料について、公式アカウントは有料。自治会で使うには有料版を使わないといけない。オープンチャットは無料。ただし、宣

伝が入る。ドーンと真ん中に来ることもあり、びっくりするから十分注意して使ってということ。オープンチャットは会員からコメントを入れられると下に移動してしまうので、ルールとして一切コメントはしない。と伝えること。閲覧だけというルールをきちっと設けてもらっている。BAND も無料。My 自治会は、大東建託が自治会用に開発したアプリ。27年3月まで無料で使えると宣伝している。以降は有料。特徴は自治会費を取っているところはこれを使えば楽に集金ができる。集金については手数料5%。ペイペイは3%。手数料がかかるが、自治会の集金、アンケートもできる機能を持っている。BAND が一番多いのは、無料で使える機能が結構ある、アンケートもできる、セキュリティ等設定もいろいろできる。世の中には新しくどんどんできている。その辺も今後の課題。新しいシステムになじんでいかないといけないと思っている。

(委員) 紙の回覧板からデジタル化したことによって、情報量は増えているか？

(シニアネット) 回覧板を PDF じゃなくて絵として投げる。コメントで送れるので、情報としては増えている。

(委員) 過去の回覧の情報も出てくるシステムもあるか？

(シニアネット) アプリによる。

(委員) アプリによっては見れないということか？

(シニアネット) はい

(委員) 推測だが、高齢者は紙だと目を通す機会があると思っている、これがアプリになったことによって、アプリを見に行かないといけない。高齢者は習慣化してないことによって見る機会が減るのではないかと思うが、見てくれと誘導するような想定はしているか？

(シニアネット) ここでのアプリは全てプッシュ型。表示するかどうかは個人の設定になるが、LINE と同じような通知がある

(市民自治推進課) 補足で先ほどの紙の方が見るのではないかとの話だが、うちの家庭をモデルとして話すと、うちの妻は勝手に回覧を回してしまう。ほとんどの家庭がそうだと思う。世帯全員が友達登録しておけば、いつでも調べることや見ることができるので、そういった意味では見る数として

は増えているのかな？という印象としてある。

(委員) 配信側は開封の確認をしているのか？

(シニアネット) 確認できるアプリとできないアプリがある。BANDは何人見たかはわかる。公式アカウントは設定で。

(委員) 開封の有無はわからないか？

(シニアネット) プッシュするアプリもある。アプリによる。

(委員) 回覧板のいい点がリアルだとすると、隣へ届けて直接受け取って、独居の安全確認につながるのかな？と思ったので、違う使い方だと理解したがそれでよいか？

(シニアネット) アプリによってそれもある。BANDはいいねボタンがある。高齢者に見たら必ず押してと約束しておけば、誰が見たか把握できる。メッセージを個別に送ることができるアプリもある。

(団体入れ替え)

② 特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク

協働相手 藤沢市住まい暮らし政策課

○特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク

協働相手 藤沢市住まい暮らし政策課から中間報告が行われた

○質疑応答 (主な質疑応答の発言要旨)

(委員) 金の話で、資料の冊子の12月の収入は補助金と自己資金であっているか？

(住まい暮らし政策課) 収入状況確認書の収入の部分の質問で、金額が1,500,000円というところについて合ってるかということか。

(委員) ちがう。収入が補助金および自己資金のみその他の収入はないという理解でよいか？

(住まい暮らし政策課) その通りである。

(委員) 活動として事業を目指すという理解をしているがあっているか？

(住まい暮らし政策課) っている。これは市と協働事業のうえでの収支は収入がないという意味だが、当然NPO法人として、会員を募って会費を集めているので、その収支をここに入れていないということ。ミライカナエルサポート事業として、市と協働する事業に関して、今後マンション政策などにどう反映していくかという意味で、協働事業としてやっている理解である。

(委員)

収入の見込みはどこかに書いてあるか？

(湘管ネット) 毎期末の決算報告時に独自に動いた収入支出については、記載するが今回は事業についてのみ記載している。

(委員) マンション管理組合から支援をもらうということか？

(住まい暮らし政策課) 今回は市の支援事業という形なので、管理組合から費用をもらう予定はない。

(委員)

ミライカナエルが終わった後は？

(住まい暮らし政策課) ミライカナエルも市の事業マンション施策はマンション管理適正化法という法律に基づいているが、国交省も市だけではマンション管理適正化はできないと言っていて、地域団体と民間団体が一緒になってやっていかないと、マンション管理という一つの地域コミュニティに入っていくことはできないと言われている。それは決して営利目的ではなく、管理不全になってしまうと市の公金が後からものすごく出てしまうので、市もある程度お金をかけて、管理を適正化していかなければいけない。そこでは公金も入っていく。間接的だが、人件費や郵送費も入ってくる。ただ、やり取りに関しては、職員だけでは足りないので、NPO法人とやっていく形になっている。収支に関しては、できるだけお金をかけないで人のコミュニティを回していく大前提があるので、事業としてプラスマイナスはあまり考えていない。ただ、NPO法人としての成り立ちとしては、組合会費を集めてるのは事実であるが、市の事業としてお金をかけないことが大前提。

(委員) 10月25日現在の収支報告書に記載されている支出の部分の約800,000円。これは10月現在か？年間では予算額という理解でよ

いか？

（湘管ネット）毎月初、予定を見て実績をフォローしているが、10月末の段階で約80万円ぐらい減になっている。来年の3月までにはまた支援活動もあるので、この80何万については使っていくということになるかと思う。

（委員）年間では1,600,000円か？

（湘管ネット）はい。1,600,000円を現段階では予定している。

（委員）1,600,000円はなるべくシフトを減らすといったミニマムが1,600,000円という理解であっているか？

（湘管ネット）ミニマムという感覚ではなくこの中で収めようということで、例えば15件のヒアリングが20件になったが、5件のプラス分について湘管ネットで出さざるを得ない。予算として15件分しか入れていないから。

（委員）20件にヒアリングしてフィードバック資料を渡したら大変喜んでくれたとのことだが、その後の支援については打診をしたけど断られるところもあったとのこと、こちらからの支援の申し出に対するマンション側の反応というのはまちまちだと思う。5件からの反応はどんな感触だったか？ぜひやってという感じか？

（湘管ネット）非常に積極的で支援をしてほしいというマンションもあるが、必要ないマンションも結構あり、我々としてはやってほしいというマンションよりもむしろやりたくないというマンションの方が重症化になりがちなので、そういうところに積極的にアプローチしていきたいと思っているが、最終的には支援をアプローチして欲しいと言ったマンションが今の5件である。その後のマンションについても、また別の機会にフォローしたいと思っている。

（委員）今の状況で、不要だという組合が結構いると思うが、意識も協力もない。でも最近は管理不全だけではなく、管理会社に委託していても、管理会社から展開したいという状況になりつつある。本来ならばそのマンションに入っている住民あるいはその周りの人たちのマンション管理運営に対して意識をもう少し上げるような働きかけも必要ではないかと思う。最終的に今後の活動として予定されているが、他マンションへの展開に対

しては、それぞれのマンションに相談して、伴走をしてというような形で、プラスアルファとして市民全体としての意識向上に対する働きかけを、この事業後作っていただきたい。支援に対しても希望。

(住まい暮らし政策課) 今回のミライカナエル事業で、支援がうまくいった事例があれば、積極的にホームページ等で、こういうことをやればうまくいったんだよというのを出していきたくないと市からも考えている。諦めている人が多いという認識。意識低い人に何を言っても変わらないではなく、一人一人の意識を高めていくために、市から積極的に、ホームページになってしまうが、情報発信していければと思っている。管理組合に対しても今後情報発信できるような方法を、市として今回の件を3年目、4年目に生かしていきたいと考えている。

(湘管ネット) 全体の意識をボトムアップしないと成り立たない話なので、この事業を通して展開できるように、今までモデルケースを作るために結構時間がかかっていた部分を、ある程度は駆け込み分けにできれば早めに支援にいかせるということも考えて活かしていきたいと思う。

(団体入れ替え)

③ 六会リトルアンサンブル

協働相手 藤沢市教育委員会教育指導課

○六会リトルアンサンブル、協働相手 藤沢市教育委員会教育指導課から中間報告が行われた

○質疑応答 (主な質疑応答の発言要旨)

(委員) 部活動の地域展開が進んでいくことが目的だと思うが、現実問題、費用は今まで学校の活動であれば、学校内の体制で何とかするところがそうはいかないところで、費用面などのプランはあるか?

(リトルアンサンブル) 楽器は非常に金がかかるので調達するという方法もそうだが、修理費を捻出する方法もあらゆる方法を考えないと問題山積している。いろいろ知恵を使っていく必要があると思っている。

(委員) まさにそのあたりがこの中学生バンドだけじゃなく、藤沢市の小学校中学校くらいの全ての生徒に関わる問題だと思うので、市全体で考えてほしいと発表を見ながら思った。

(委員) 一年目ということで、とにかくこの事業を形あるものに仕上げていくというところを一生懸命やっているかと思う。気が早いけど、協働事業終わった後、市との関係、その後の展開について現時点での展望を聞きたい。

(リトルアンサンブル) 市民活動としては一つのモデルを示すことでいろんな方法でできるようなことを示したいと思っている。実際指導課がどのように動いていくかは別問題だと思うが、吹奏楽部の顧問をやっていた方がいて、サポートできる側の方が何人もいる間に何らかの形で子どもたちを部活動から移行していくことはできないのかと考えている。それには人材が必要で、楽器ができる方も必要だが、学校教育に関わりを持ってきた方たちの力は絶対必要だと思う。そのあたりを子供たちの地域で進行していくためにはどうしたらいいかと常に考えているが、市民の皆様の力が重要だというのが私の本音。いろんな形に見える化していくことで、実際に六会リトルアンサンブルはいろんなところで演奏していて、私も吹奏楽部の顧問だったので、保護者が声をかけてくれ、それによってうちに眠っている楽器を寄付したいと。寄付を募るというのも一つの方法だと。何らかの形で声をかけてくれる。応援してるというのがどんな形になるにせよ、楽器を演奏している子どもたちの姿は皆さん喜んでくれるので、活躍している子どもたちの姿を見せていきながら、市民にも応援して継続していきけるようなモデルを作っていきたいと思っている。

(委員) これはあくまでも中学生のバンドという認識でよいか？

(リトルアンサンブル) 市民活動なので、小学生のバンドも実は高校生が手伝いをしたり、社会人が応援したり、いろんな形で全世代が入ってこれる。中学生のバンドを作っていくというところで、まず部活動の地域移行に関わる部分では高校生も対象になってくる。長いスパンでいけば、いろんな形で取り込む方法はあるのではないかと考えているが、この2年間は中学生バンドを立ち上げて軌道に乗せることを頑張りたいと思う。

(協働コーディネーターからのコメント)

(協働コーディネーター)

湘南ふじさわシニアネットは、2年目で仕上げの時期に入っていると報告

をいただいた。広報が3分の1になったことはとても嬉しい。本日は藤沢市一日清掃デー、藤沢中で清掃する日だが、例えば私どもの町内会はいつもとだと10人くるが、このやり方をしたらマンションに住んでる人もあと10人来てくれたなど、そのような効果が上がってくるとよいが、効果測定を今後考えなければいけない。

湘南マンション管理組合ネットワークは、専門性の高い領域で、行政も勉強しているが、毎年異動がある中で、突き詰めた団体さんと一緒にやることでのりしろができて、これから先の藤沢のマンション施策が何らかの方法で変わってくるのではないかと期待をしているので、2年間一緒に進めていただけたらと思う。

六会リトルアンサンブルは、演奏者が中心になってグループで地域のバンドを作る例が日本中にあるが、市民団体が考えたというのは藤沢が一番ではないかと思う。自信を持って進めていただき、スポーツ団体の地域スポーツクラブを作ろうという国の施策がここまで来ているので、地域文化団体を作ろうとしっかりとした政策が出る可能性もあるので、トップバッターとして、パイオニアとして頑張りたい。行政の報告に感動した。三つの団体とも、調整がうまくいかず、一番大変だったのは教育委員会だったと感じた。これから先素敵なアンサンブルができると本当に心から感動したので、引き続きの調整よろしくお願ひしたい。

(協働コーディネーター)

3団体とも専門性をしっかりと生かし、行政がそれを支える。協働なので支えるとは違うかもしれないが、うまくいった協働事業ではないかと思う。湘南ふじさわシニアネットと市民自治推進課も2年目となり最後どこに落ち着くかなど。自治会の役員さんの負担の軽減や、若い人に自治会に興味を持ってもらう目的は前に進んできていると感じていて、市民自治としての自治会へのサポートの仕方も今後検討していただければありがたいと思う。今年1年目の湘南マンション管理組合ネットワークとMLEは、スタートの時点では初めての相手と行政と一緒に事業をすることはなかったと思うので、思うように来なかったと思う。だが、動き出して目指すところが同じだとスムーズに行くんだと、感じている。残された一年をどのように成果を残せていくのかが重要な課題と目標になったかと。そのあたり落ち度のないようにサポートをしていくと改めて感じた。

○事務局から意見交換の説明が行われた。

○3グループに分かれて意見交換が行われた。

(意見交換まとめ)

(委員) ふじさわシニアネット。二年目で、最後の仕上げの時期で、具体的な活動の話も聞いた。実際に導入している自治会で導入に関わった役員が一年で替わってしまうこともあり、導入するときに時間をかけてやっても難しいところもある。一方、実際にやっているのは役員でも会長でもなく、その自治会で呼びかけた詳しい人がサポートで入っていることが意外と多いとの話があった。このようなやり方で導入を進められることを見出されたのは非常に大きな成果だと思った。

コーディネーターから効果測定も考えてほしいとのコメントがあった。これについて活動が活発になった、若い人が参加したということも重要なことで押さえておきたいが、それ以前に自治会町内会が危機に瀕しており、それを解消して安定して運営していくことができるというところを一つ大事な指標だと考えたいという協働部署からの話もあった。この事業は、13自治会が実施し、さらに20自治会が検討しているという成果も上がっているが、課題もある。例えばスマホのセキュリティが強化されている。使いたいものが使えなくなり、導入をためらうところもあると思うので、それを解消することもこれから広げていく上で重要になる。そうした課題を整理することも必要になる。今年度で最後になるが、この後どうするかということについては、今相談しており、今後は自治会や連合会に対して有償事業という形で進めていけないか検討しているとのこと。今年度を持って事業が終わるということでは全くなく、引き続きどのようにやっていくかをお互い相談しながら進めているとのこと、心強く感じた。

(委員) 湘南マンション管理組合ネットワークと市の協働事業で、老朽化したマンションを適正に管理している。その道筋をつけるという協働。この協働事業以前からそういう課題はあるが、さほどの深い関係はできていない。しかし、この協働事業を通じて両チーム組んで、両者の強みを生かし合いながらこの事業を進めていることを強く感じた。市は3年から5年ぐらいで人事異動がある。マンション管理に関する専門性、あるいは個別のマンションの情報の細かいところは、取り組んでいるNPOに知見がある。逆に市は非常に信用率があり、NPOだけで行くと何しに来たとなるが、藤沢市と一緒に受け止めてくれるということで、両者の強みをそれぞれ持ち寄っていい形の事業ができている。現状、事業として順調に進んでいる。協働事業が終わった後どうなるのかとの話では、金はこれで終わる

かもしれないが、そのあとも協力関係を築いて力を合わせていくとのことで、この協働事業がきっかけとしていい形ができたと思う。大変な課題を抱えている団体の情報が届きにくいということがあるので、その辺をどう切り開いていくのか、両者一体の取り組みがますます必要になると思う。ここにさらに期待していきたいと思う。

(委員) 六会リトルアンサンブルと教育指導課。学校の部活プラス地域でやりたいという生徒がいる。コンサートを見た人は、子供たちが自信を持ってやっているのも非常に効果があったと。その一方で、周知が難しい。課題としては楽器の取得を含めての資金面の難しさ。他の地域でも同じような事例が増えているが、手つかず状態であることが分かった。学校にはすべからず周知してはいるが、届いていないところも。場所のサポートをしてくれるポジティブな方からはやりたくてもできなかった、この情報が届いてなかったという例もあった。この辺の情報をいかに周知していくかが、今後の課題として教育指導課と団体でより密に相談してほしい。市民については、解決できないところもあるが、先ほどの事例であったように個人的に眠っているものもたくさんあると思うので、別途楽器募集のような広報を出すなど、より市民の協力を得ていくということも一つだ。休日の部活の地域展開とは違う形だが、音楽だけじゃなく、いろいろな文化サークルがこれから展開をすることが期待されているので、その一つのモデルとしてやろうと思ったがいろいろなところにハードルがあった。他校の子どもたちを教室に入れるということに対して、学校の抵抗があるなど、どこにどんなハードルがあるかということを出すこと自体もモデル化の一つのステップになると思う。将来的な展望も含めながら、現実的な MLE の活動を一緒に盛り立ててほしいという話もあった。

○副委員長から協働コースの中間報告会の講評が行われた

○協働コース中間報告会が終了し、事務局から団体、協働部署退出の案内が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(3) その他

○事務局より、市民活動推進計画の改定状況について、次回の委員会の開催日について連絡があった。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○閉会

—終了—